

「鹿島小学校の鹿島太鼓伝承活動の取組」

1 学校名

薩摩川内市立鹿島小学校

2 学年・人数

1年 3人 2年 5人 3年 1人 4年 4人 5年 7人 6年 5人
計25人

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和元年5月～11月 ふるさと・コミュニケーション科
(全10回) (鹿島地区コミュニティーセンター)
令和元年11月7日(木) 合同文化祭りハーサル
(鹿島地域コミュニティーセンター)

(2) 発表の日時・場所

令和元年11月9日(土) 鹿島幼・小・地域合同文化祭
(鹿島地域コミュニティーセンター)

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 名称

鹿島太鼓(かしまだいこ)

(2) 由来

昭和55年鹿島村郷土芸能保存会が組織され、昭和56年自治宝くじの助成金を使って太鼓を購入した。昭和57年から新しい郷土芸能として、荒波に雄々しく立ち向かう漁民の姿を太鼓の音に表現した「鹿島太鼓」の創作を行い、地区コミュニティー婦人部を中心に継承してきた。

その後、鹿島中生徒が練習し、文化祭等で披露してきたが、平成25年度から休校になったため、小学生が練習し、小・幼・地域合同文化祭で披露してきた。平成30年度からは海星中生徒の本校卒業生増加に伴い、海星中文化祭での鹿島太鼓の披露を行うようになった。さらに今年度から鹿島幼・小・地域合同文化祭に海星中生徒による鹿島太鼓の演目を盛り込み、世代を超えた伝承活動となってきている。

(3) 構成等

大太鼓、中太鼓、締太鼓、小太鼓で編成している。参加人数によって竹太鼓等でアレンジしている。

5 保存会や地域との連携の具体

学校の教育活動としては、「ふるさと・コミュニケーション科」の中で練習を位置づけ、地域の保存会の橋野恵子先生に指導していただいている。文化祭までに10時間の練習を行っている。

太鼓はすべて保存会からお借りしている。バチは平成26年度に学校で児童用を購入し、その後、毎年、破損や児童数増加による不足分を購入している。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

学校と地域が協力しながら、地域の伝統文化を継承していくための重要な活動と位置付けて取り組んでいる。お盆に行われる港まつりや大晦日に地域保存会が演奏を行うが、帰省した高校生や大人も入って演奏することもあり、子どもたちの憧れや意欲を高める機会となっている。また、本校は留学制度による転入児童があることから、毎年、鹿島太鼓に初めて触れる児童も少なくないが、鹿島のよさを知り、学び、体験できるよい機会ととらえ、練習に取り組むようにしている。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



練習風景



令和元年度文化祭での発表（小学校）



令和元年度文化祭での発表（地域）



令和元年度文化祭での発表（中学生）

8 参加児童・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

【4年生児童】

「今年の中太鼓だよ。」と言われてお兄ちゃんになった気がしました。中太鼓のリズムは力強くてカッコいいので、ぼくは力一杯打ちました。お客さんからの拍手が聞こえたときには嬉しくなって今までで一番大きな声で「ありがとうございました。」と言いました。

【保護者】

昨年度は初めてで、不安げに太鼓を叩いていた息子でしたが、2年目になり大太鼓を任せていただき、より意欲が高まったようでした。練習を重ね、自信もつき、文化祭で堂々と演奏する姿を見て感動しました。貴重な体験をさせていただくとともに、鹿島太鼓の伝承に関わることができたことに嬉しく思っています。

【教職員】

竹、締め、中、大。学年が上がるにつれ、大きな太鼓を任される。下の学年の児童は、大きな太鼓を叩く高学年に憧れをもち、こっそり休憩中にお兄ちゃんたちのリズムを真似る。現代には少なくなりましたが、見て聞いて真似る姿が鹿島太鼓にはある。この太鼓の伝統が、この土地の子どもたちの育ち方にも影響していると思う。この良き伝統を今後も受け継いで欲しいと思う。